

Joyful Communication! ドン・ボスコの風

SALESIAN
BULLETIN

January 2012

No.

8

Ciao! サレジオ家族探訪

四日市サレジオ志願院 / 静岡サレジオ

Info

お知らせ / 国内ニュース

読者プレゼント

時を超えて紡ぐショートストーリー

ともだちへ

Essay

「ジョヴァンニ・ボスコ19歳。進路への葛藤の日々。」

世界のサレジオ家族だより

モンゴルの大地にて

連載 インタビュー ドン・ボスコの教え子たち

石松伸一さん / 佐野裕子さん

世界のサレジオ家族ニュース

ドン・ボスコゆかりの地を巡る

言っときますけど…

本のひととき

特集

代の決心

神父・シスターへの道

Aspirant Life
志願院の暮らしガイド

神 神父
シスター
元志願生

座談会

ドン・ボスコの生涯を知ろう

～ 2015.8.16 ドン・ボスコ生誕 200 周年に備える～



サレジオ会日本管区長
アルド・チブリアニ神父



信頼しきった様子で語るアルペラ少年に、真剣に耳を傾けるドン・ボスコ

徒への手紙(11章1節)

これは使徒パウロがコリントの信徒に書いた手紙の言葉ですが、私たちもドン・ボスコにならうことによって、キリストの愛に近づくことができます。神はドン・ボスコを、父、師として私たちに与えてくださいました。ドン・ボスコがキリストの呼びかけにこたへていった熱意を、私たちも自分のものとし、聖霊に突き動かされて成長していくことができますように。扶助者聖母のとりなしを祈りつつ。

2012年1月24日

聖フランシスコ・サレジオの記念日に

*告解：神に罪を告白し、ゆるしをいただく恵みのこと。

2015年8月16日に祝われるドン・ボスコ生誕200周年は、私たちサレジオ家族にとって特別な記念です。この記念が実り豊かなものとなるよう、入念な準備が必要です。

サレジオ会のチャーベス総長は、2011年8月16日からの準備の1年目に「ドン・ボスコの生涯とその時代の人々が置かれていた状況を知るように」と呼びかけています。幸いに、ドン・ボスコ自身が著した『自叙伝』をはじめ、生涯を知るのによい本『ドン・ボスコ伝』、DVD『ドン・ボスコ』がありますので、ぜひご活用ください。

この準備の1年目を呼びかけるポスターには、ドン・ボスコの生涯にまつわるいくつかの写真が配置されています。その中に、ドン・ボスコがパウロ・アル

ペラ少年(後のサレジオ会3代目総長)の告解*を聴いている姿を写したのがあります。信頼しきった様子で語るアルペラ少年に、ドン・ボスコは真剣に耳を傾けています。

この姿は、ドン・ボスコを知る鍵ではないでしょうか。ドン・ボスコは子どもたちの心の叫び、不安や希望、苦しみ、喜びを受けとめ、導きました。一方、子どもたちは、自分を受け入れ、共に人生を歩んでくれるドン・ボスコを通して、神に愛されている、人生には意味があると実感しました。若者のために父である神、良き牧者キリストの姿となり、神の愛の担い手となったドン・ボスコをこの写真に見ることができます。

「わたしがキリストにならう者であるように、あなたがたもこのわたしにならう者となりなさい。」(新約聖書・コリントの信

「ドン・ボスコを知る」ために—— おすすめの本・DVD



完訳
ドン・ボスコ伝

テレジオ・ボスコ著 サレジオ会訳
A5判 540頁 ¥1,890

ドン・ボスコについての証言や記録、混迷するイタリアの状況を紹介しながら、その人柄と生涯を描く伝記の決定版。



ドン・ボスコ自叙伝

ドン・ボスコ著 石川康輔訳
四六判 350頁 ¥1,260

教皇の命令により執筆された自叙伝。幼少期から彼の事業が軌道に乗るまでの40年間の回想録。



青少年の友
ドン・ボスコ

キャサリン・ピープ著 野口重光訳
新書判 221頁 ¥693

少年たちの神父になったドン・ボスコの魅力あるエピソードを中心に紹介。小中学生にも読みやすい新書判。



DVD
ドン・ボスコ

ロドヴィコ・ガスパリーニ監督
日本語吹替版 200分 ¥1,000

愛と信頼、強い心で少年たちを育んだ真の教育者の姿が美しい映像でよみがえる。イタリア国営放送の感動の作品。



DVD ドン・ボスコ
夢見る少年ジョヴァンニ

ジュゼッペ・ロランド監督
日本語吹替版 45分 ¥1,000

少年ジョヴァンニが青少年に生涯をささげる司祭になるまでの道のり。苦学しつつも喜びをもって司祭の道をめざす。

お求め・お問い合わせは……ドン・ボスコ社 TEL 03-3351-7041 FAX 03-3351-5430 ネットショップhttp://www.donboscosha.com/

INDEX もくじ

3 Message ● ドン・ボスコの生涯を知ろう

4 ドン・ボスコゆかりの地を巡る ● キエリ

5

特集 ● 座談会 ● 10代の決心 神父・シスターへの道



志願院に入ろうと思ったきっかけ／親の反応／
ホームシック／きまり・規則の厳しさ／
思春期・反抗期を過ごして／
神父・シスターへの道を歩む意味／
なぜ青少年期なのか／それぞれのその後



10 志願院の暮らしガイド ● 志願院の一日／志願院の様子／神父・修道士・シスターになるまで

12 Essay ● 「ジョヴァンニ・ボスコ19歳。進路への葛藤の日々。」

14 サレジアン旬の一言 ● 言っときますけど…

15 Book Review ● 本のひととき

16 世界のサレジオ家族ニュース

20 世界のサレジオ家族だより ● モンゴルの大地にて

22 インタビュー ● ドン・ボスコの教え子たち

石松伸一 from 日向学院／佐野裕子 from 城星学園



24

時を超えて紡ぐ
ショートストーリー ● ともだちへ 文：ノゾエ 征爾 絵：おむら まりこ

26

Ciao! サレジオ家族探訪 ● 四日市サレジオ志願院
静岡サレジオ

30

Info ● お知らせ

31

読者プレゼント



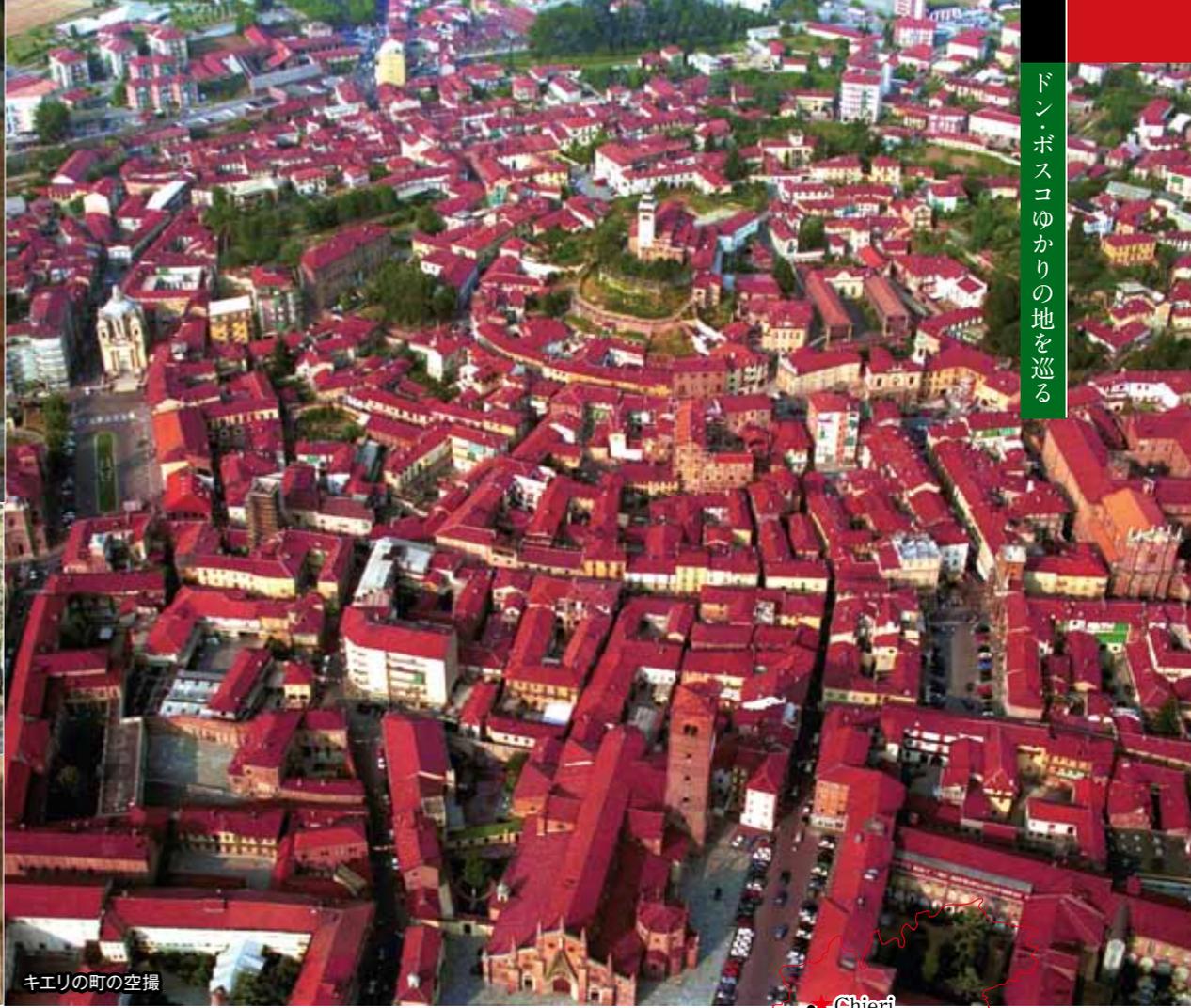
表紙の写真
星学園、中学生の教室



ドン・ボスコとは?
「青少年の友」と呼ばれ、見守られた若者たちのために生涯を捧げた神父。1815年イタリア生まれ、名前はヨハネ(イタリア語でジョヴァンニ。ドン・ボスコは「ボスコ神父」の意味)。青少年教育に献身するサレジオ会を創立。1888年帰天。

サレジオ家族とは?
ドン・ボスコの精神を受け継ぐ修道士・信徒・協力者たち。世界130以上の国で、28団体、40万人以上のメンバーが、学校、教会、社会生活のさまざまな場面で青少年や貧しい人々のために奉仕している。サレジアンファミリーとも呼ばれる。

「ドン・ボスコの風」について—— 「ドン・ボスコの風」は、喜びを共にし、サレジオ家族の原点を見つめ、絆を深め、社会・世界に羽ばたいて、その実りを分かち合うためのコミュニケーション誌を目指しています。「サレジオ精神」を多くの方々と共有し、新しいつながりに広げていってほしいとご活用いただければ幸いです。皆様からの情報提供とご支援をよろしくお願いいたします。



キエリの町の空撮



恵みの聖母大聖堂の聖母像。ジョヴァンニはこの像に祈って司祭への道を決定した。



軽業師と競争した道



下宿していたカフェ・ピアンタの階段下



キエリ | ドン・ボスコが将来の道を決めた町 |

★ イタリア北部ピエモンテ州 ★

1831年の秋、16歳のジョヴァンニ・ボスコは勉強するために、トリノから15km離れたキエリ市へ向かい、2年間、母の友人ルチア・マッタの家に下宿した。学費や生活費のためにアルバイトをしながら、公立学校へ通い、成績優秀生として学費を免除された。最初の1年に2回も飛び級し、中学3年間の課程を終えた。

日曜日は教会に通い、余暇の時間に「喜びの会」を作って、遠足やスポーツ、演劇などを楽しみ、若者たちの人気者となった。軽業師と競走したエピソードは有名で、「自叙伝」にも生き生きと描かれている。

1833年から転々と下宿を変え、生活は苦しく、カフェ・ピアンタでアルバイトをしながら、その狭い階段下に泊まった。一時、フランシスコ会へ入会しようとも思った。

1834年、19歳の時、親友ルイジ・コモットロに出会って共に将来について語り合い、進むべき道について恵みの聖母マリアに熱心に祈った。母とカフェ・ピアンタ神父に相談し、同神父の協力を得て、高等学校を卒業してから、1835年の秋、神学校に入った。

神学校では優秀な成績で哲学と神学の勉強を修め、1841年6月5日、トリノで司祭に叙階された。

文 ● **ガエタノ・コンプリ** Gaetano Compri
 サレジオ会司祭。チマッティ資料館館長。

特集

座談会
 神父 × シスター × 元志願生

10代の決心 神父・シスターへの道

10代で神父・シスターになる道をめざし、親元を離れて、志願院で共同生活する若者たち。いったい、どんな暮らしなのだろうか？ 厳しい修行をしたりするのだろうか？ 思春期や反抗期ならではの苦悩もあるのでは？ 志願院での暮らし、成長、人生について悩み考えたこと、そして、今の生き方について、志願院OB・OGの4人に尋ねてみた。





きまりは厳しくても、 毎日あまりある充実感

F 私は1度もホームシックになりませんでした。帰省から志願院に戻ってきた夜、みんな布団で泣いてるんですよ。私は「なんで泣

いてるのかなあ？」と(笑)。志願院は、きまりとかが厳しいイメージがあるのですが……

**志願院は、きまりとかが
厳しいイメージが
あるのですが……**

F いろいろな規則はありましたけど、厳しいとは思いませんでした。シスターになる人には制限があったり、当然と思っていましたから。唯一テレビが見られたのは、土曜日の夕方、NHKの「大草原の小さな家」。みんな楽しみにしていましたね。

D 厳しかったけれど、それを補ってあまりある充実感がありましたね。やることがいっぱいあり

N 私は志願院の中の人たちより、外の人たちと交流するほうが向いていると感じていました。志願院は楽しくて充実しているけど、何か無菌室の中にいるようで、いつまでも精神的に強くなれないと感じました。外の人たちといたほうが、免疫をつけることができるんじゃないか、そのほうが自分には合っているのかなど。それで院長に相談して、高校卒業まで残ってからの決断をしました。

D 仲間や先輩が身近なモデルとしてありました。その人たちと同じ気持ちで、同じ目標に向かってチャレンジすることができるとうれしかったです。中学生の時は、先輩の高校生はすごいなあと思いました。生活に規律を与えていたし、行事の企画などしっかりやっていた、自分もそうならなくてはと思いました。だから、いい先輩がやめていくのはつらかったですね。これからの道を歩まないんだ、という寂しさがありました。

*志願院【しがんいん】神父・修道士・シスターへの道を志す者が、親元を離れて共同生活する場。中高生の場合、日中は近くの学校に通い、志願院に帰るとレクリエーション、自習、祈りなどの時間割がある(詳細はp.10「志願院の暮らしガイド」、p.26「四日市サレジオ志願院」参照)。社会人から入るシニア志願院などもある。

- F** シスター (サレジオン・シスターズ修道女)
 - D** 神父 (サレジオ会司祭)
 - C** シスター (イエスのカリタス修道女会修道女)
 - N** さん (サレジオ会志願院OB、中1から高3まで在籍)
- 聞き手 / 「ドン・ボスコの風」編集部



どんなきっかけで、 志願院に入ろうと 思ったのですか？

F 姉や兄たちがすでにシスターや神父への道を歩み始めていたのですが、それに影響されていたというより、3歳の頃から私は、ただひたすらシスターになりたいかつたんです。志願院に入るまでそれから10年があつて、途中でスチュワード(客室乗務員)やお花屋さんになりたいというのはありませんが、小学5年生の時、志願院に行くこと決めました。

D 私も、先に志願院に行っていた兄の影響があります。その時点では、神父になりたいという明確な目標はなくて、兄貴にそのままくっついて入ったという感じですね。

N 私も兄の影響です。5年生の文集には、神父になりたいと書いています。決定打は野尻湖の聖書学校(夏に行われるキャンプ)でしたね。高校生の志願生リーダーたちの姿を見て憧れました。サレジオ

の神父さんたちや神学生たちも、お兄さんの存在でした。

C 私は、幼稚園の頃からカリタス会のシスターにお世話になっていて、シスターになりたいと思うよりも、なるのが当たり前という気持ちで自分の中にありました。小学6年生の時、母に将来どうするのか聞かれて、「志願院に行くよ」と自然に答えました。

**志願院に
入ることになって、
親はどんな反応でしたか？**

D 両親は兄のほうが神父になると期待していて、私のほうは「どうせ帰ってくるんだろ」と親は思っていたみたいです。結果は、

仲間と一緒に生活する 期待感は大い

兄が途中でやめて、私が残りまして。私にとつて「いつでも帰ってきていいよ」という感じがよかつたと思っています。

C とくに父は寂しそうで、かなり顔に出っていました。父は私が一人娘だったので、本当は行ってほしくなかつたはずなんです。でも娘の気持ちを尊重したいという思いがあったのだと思います。

F 私は小さい頃から志願院に行きたいと言っていたし、父は「神に身をささげて生きる修道生活が一番の幸せだ」と思っているんです。問題はありませんでした。でも母は寂しいと思っていたはずなんです。私は末っ子でしたから。だから母の顔は見ないようにしていました。

**思春期・反抗期に
志願院で生活して、
どんなことを学び、
悩みましたか？**

F 自分を初めて本当に見つめました。それまで家庭でかわいがられて育って、あまり自分を見つめないで生きてきました。けれど親元を離れ、違う環境、つまり自分を知らない人たちと一緒に生活することによって、自分を見せつけられました。人の嫌なところは自分にもあることを学びましたね。

D 仲間や先輩が身近なモデルとしてありました。その人たちと同じ気持ちで、同じ目標に向かってチャレンジすることができるとうれしかったです。中学生の時は、先輩の高校生はすごいなあと思いました。生活に規律を与えていたし、行事の企画などしっかりやっていた、自分もそうならなくてはと思いました。だから、いい先輩がやめていくのはつらかったですね。これからの道を歩まないんだ、という寂しさがありました。

N 身近に尊敬できる人がいたというのは幸せでしたね。志願院をやめてから、教会学校のリーダーを担当した時に思い出したのは、志願院の先輩後輩の関係です。エスカラーター式に身近なモデルとして先輩にあがれ続けて成長していくこと。これは子どもたちを導いていくのに一番いい方法だと思います。もちろん共同生活では、気の合わない人とも一緒にいなければいけないというのも勉強になります。嫌でも人間的に成長させられます。

C 人間関係でぶつかった時はつらかったけど、あれがあったからこそ、今の自分があると思えます。つらいことと感謝することは一緒でしたね。志願者どうしというのは「友だち」じゃないと思います。気が合つのが友だちで、志願者どうしは兄弟とか姉妹といったほうが近いように思います。

D 中学、高校の時期は、司祭・修道者への召命（神からの呼びかけ）のこともそうですが、まず人間として成長し、信仰を育てるという

若者と出会い、神さまと人をつなげていきたい



ことが大事だと思えます。親元を離れ、仲間と共に共同生活をする。それがプラスに働くということも確かにあると思います。

同時にやはり、召命に耳を澄ませる時期でもあると思います。神さまの呼びかけは、ある人が成長したときにだけあるのではなく、ずっとあるはずなんです。召命はタイミングなので、子どもが呼びかけを感じたのであれば、その呼びかけを大切にし、その声に従って集まって歩いていく場があってもいいと思います。志願院は召命を決めた人が入るのではなくて、探しているところなんです。そういう人が入るところなんです。そして次の段階でまた選ばれるんです。呼びかけがあったから来ていい。なかつたら来ていいはず。

N それはありますね。自分はやめました。志願院にいたことは自分にとって成長の場でした。学んだことが地元や社会、日々の生活の中で生きています。やめたとしても派遣されていることを感じます。

D 召命というものは、司祭・修道者の召命だけでなく、信仰の視点で生き生きとした場を見つけないことだと思えます。だから、去つていった仲間がダメだったのではなくて、別のものを選んでだということなんです。実際、やめた

場が締まるということがありました。祈りできちんと場が締まり、緩急をつけた生活がありました。今はそういう生活ではないのでゆるゆるですけど（笑）。祈りがなくなると締められなくなってしまうんですね。

D 神父になってよかったことは、たくさんの人、たくさんの方と若者たちに会えることです。成果がどうかはわからないけれど、自分を通して、神さまをその人たちに近づけるきっかけが与えられています。それが喜びです。それを続けていきたいです。

F 9歳の時にアフリカの貧しい子どもたちの写真を見て、私はシスターになってこの人たちのために働きたいと思いました。貧しい人のために働くのは、結婚してもできることですけれど、やはり自分の命をかけて、つまり生涯を徹底して神と人にささげるために、シスターになって生きていくのがいいと思いました。もちろん神さまからの呼びかけがなければできないことだと思えます。呼びかけられたからには、応えていきたいと思えます。

N 身近に尊敬できる人がいたというのは幸せでしたね。志願院をやめてから、教会学校のリーダーを担当した時に思い出したのは、志願院の先輩後輩の関係です。エスカラーター式に身近なモデルとして先輩にあがれ続けて成長していくこと。これは子どもたちを導いていくのに一番いい方法だと思います。もちろん共同生活では、気の合わない人とも一緒にいなければいけないというのも勉強になります。嫌でも人間的に成長させられます。

C 人間関係でぶつかった時はつらかったけど、あれがあったからこそ、今の自分があると思えます。つらいことと感謝することは一緒でしたね。志願者どうしというのは「友だち」じゃないと思います。気が合つのが友だちで、志願者どうしは兄弟とか姉妹といったほうが近いように思います。

D 中学、高校の時期は、司祭・修道者への召命（神からの呼びかけ）のこともそうですが、まず人間として成長し、信仰を育てるという

N 身近に尊敬できる人がいたというのは幸せでしたね。志願院をやめてから、教会学校のリーダーを担当した時に思い出したのは、志願院の先輩後輩の関係です。エスカラーター式に身近なモデルとして先輩にあがれ続けて成長していくこと。これは子どもたちを導いていくのに一番いい方法だと思います。もちろん共同生活では、気の合わない人とも一緒にいなければいけないというのも勉強になります。嫌でも人間的に成長させられます。

C 人間関係でぶつかった時はつらかったけど、あれがあったからこそ、今の自分があると思えます。つらいことと感謝することは一緒でしたね。志願者どうしというのは「友だち」じゃないと思います。気が合つのが友だちで、志願者どうしは兄弟とか姉妹といったほうが近いように思います。

D 中学、高校の時期は、司祭・修道者への召命（神からの呼びかけ）のこともそうですが、まず人間として成長し、信仰を育てるという

神さまから呼びかけられた生き方を見つける場



ことが大事だと思えます。親元を離れ、仲間と共に共同生活をする。それがプラスに働くということも確かにあると思います。

同時にやはり、召命に耳を澄ませる時期でもあると思います。神さまの呼びかけは、ある人が成長したときにだけあるのではなく、ずっとあるはずなんです。召命はタイミングなので、子どもが呼びかけを感じたのであれば、その呼びかけを大切にし、その声に従って集まって歩いていく場があってもいいと思います。志願院は召命を決めた人が入るのではなくて、探しているところなんです。そういう人が入るところなんです。そして次の段階でまた選ばれるんです。呼びかけがあったから来ていい。なかつたら来ていいはず。

N それはありますね。自分はやめました。志願院にいたことは自分にとって成長の場でした。学んだことが地元や社会、日々の生活の中で生きています。やめたとしても派遣されていることを感じます。

D 召命というものは、司祭・修道者の召命だけでなく、信仰の視点で生き生きとした場を見つけないことだと思えます。だから、去つていった仲間がダメだったのではなくて、別のものを選んでだということなんです。実際、やめた

仲間が教会で、またそれぞれの場で活躍しています。そうであれば志願院の存在意義はあるはずなんです。チャレンジする価値のある場です。

中学生から養成するのは、青田買い・子飼いのようなイメージがありますが……

D それはありますね（笑）。これはドン・ボスコからの伝統でしょう。ドン・ボスコ自身が、呼びかけた子どもたちの中から後継者を育てていって、子どもたちもそれに応えていきました。ですから、社会人になってから召命を感じて志願院に入りたいと思っても、ちょっと入りにくい雰囲気かもしれないですね。

F 確かに大人では入りにくいかもしれませんが。たとえば私たちはレクリエーションを大切にします。大人になってから入ろうとする人は、なんでそんなことをしなければならぬのかと感じてしまうようなんです。でも、これがサレジオ家族の精神なんです。

私はドン・ボスコやマリア・ザレロ（サレジオン・シスターズをド

*召命【しょうめい】 神から与えられた使命・生き方。狭義では神父・シスターとしての生き方に神から呼ばれること。神父・シスターは、職業（job）ではなく、生き方（vocation）といえる。

ドン・ボスコ 10歳の時の決心

10歳の時、カロッソ神父と出会い、勉強したいかと尋ねられた時の会話。

「なんのため勉強したいのかね」
「司祭になるためです」
「司祭になってどうするつもり」
「たくさんの方とつき合い、話しかけ、宗教を教えてあげたいんです。みんな別に悪党ではないのに、悪党になつてしまふんです。面倒をみてくれる人がいないから」

（ドン・ボスコ自叙伝より）

10代の決心
神父・シスターへの道



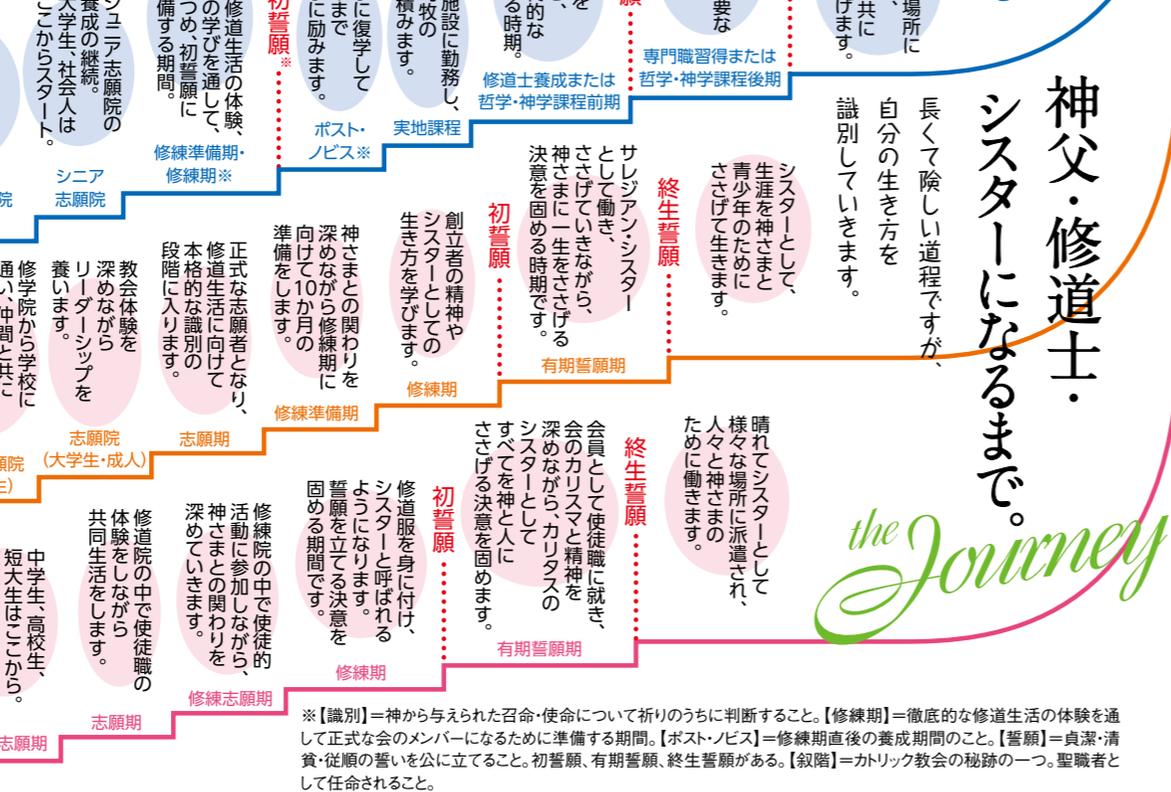
サレジオ会



サレジオン・シスターズ



イエスのカリタス修道女会



志願院の暮らしガイド
Aspirant Life
神さまに呼ばれた若者たちの家

人々と神さまのために生涯をささげる、神父・シスターをめざして共同生活する志願生たち。神さまから与えられた使命を問いかけて暮らす、志願院での生活をちよっぴり紹介します！（ここでは中学・高校生の志願者について紹介します）

志願院の一日。
a Day in the Aspirante

共同生活の内側は気になるところ。一日のスケジュールを追ってみました。中学生・高校生の平日の場合

サレジオ会

祈り、勉強、スポーツ、音楽…ドン・ボスコにならない、仲間と共に信仰、召命*を育む日々です。

22:00 就寝
20:00 朝の祈り
19:30 夕食
18:30 入浴・楽器練習
17:30 スポーツ
16:00 帰院・おやつ
15:30 就学

6:00 起床
7:15 三ツ・朝の祈り
8:00 朝食・掃除
朝礼・登校

サレジオン・シスターズ

笑顔の絶えないお姉さんたち。青少年と共に歩むため、勉強に祈りに励んでいます。

22:30 就寝
21:00 ポーナツテラス
20:30 ロザリオ
朝の祈り・夕食
レクリエーション
18:00 帰院・おやつ・入浴
（個別に習い事）
16:00 就学

6:10 起床
6:30 三ツ・掃除・朝食
8:00 就学

※【ポナツテラス】=就寝前の短い話。イタリア語で「おやすみなさい」の意。

イエスのカリタス修道女会

ドン・ボスコの子どもたちらしく喜びと快活さをもって、シスター、仲間と共に召命の道を歩んでいます。

22:00~22:30 就寝
21:30 朝の祈り
21:00 読書・楽器練習
カデラ・ダンス
レクリエーション
19:15 夕食
18:10 おやつ・入浴・洗濯
帰院
16:30 就学

5:35 起床・掃除
朝の祈り
6:00 三ツ・朝食
6:20 登校
7:35 8:00 就学

ちよっぴりだけ
体験してみたい！
Come & See

どんな、人たちがいて、どんな雰囲気なのか？
気になる人は参加してみよう！

夏のキャンプ

- 野尻湖少年聖書学校
- 三重南部ブロックサマーキャンプ
- フォルティッシモ in 野尻湖
- 関東サマー練成会
- 湯布院サマー練成会
- カリタスサマースクール (宮崎・東京)

イベント

- 志願院一泊体験
- 地域の子どものためのクリスマス会
- 奈良北部ブロック青少年交流会 (年2回)
- Youth Festival
- 祈りの集い
- 女子信徒黙想会
- クリスマス会

練成会

- 各小教区の練成会 (サレジオ小教区、手取・長与教会練成会、NYCCなど)
- 青年練成会
- 中高生合宿練成会
- よるこびの集い (小学生)
- 奄美地区、五島、湯川教会、手取教会の練成会

その他

- 近隣小教区での日曜学校の手伝い
- 地域教会でのユースセンターの手伝い
- 児童養護施設でのボランティア体験
- 小教区の教会学校の手伝い

※その他様々あります。詳細は下記各々の担当へご連絡・ご確認ください。

志願院の様子。
中学生・高校生の場合

Daily Scene

仲間たちとの日々の暮らしの中で、信仰と召命を見つめていきます。

サレジオ会

- ▶日曜日には教会学校の手伝いをします。
- ◀スポーツの時間。
- ▶チェチリア祭 (志願院音楽祭) でのひとコマ。演劇もお手のものです。

サレジオン・シスターズ

- ▶ピアノの先生も一緒に誕生会。
- ◀楽しい遠足、奈良にて。せんとくんと一緒に。
- ▶キャンプ (フォルティッシモ in 野尻湖) でのひとコマ。

イエスのカリタス修道女会

- ▶聖書の勉強中。
- ◀召命司牧のために教会を訪問。歌声を披露。
- ▶ゆかた姿の東京志願院の志願者たち。

各修道会の志願院・修道院に関するお問い合わせ

- サレジオ会 四日市サレジオ志願院 Tel.059-345-5609 ホームページ <http://salesians.jp> (リンクから移動)
- サレジオン・シスターズ 東京修学院 Tel. 03-3906-0170 ホームページ <http://www.salesian-sisters.jp/>
- イエスのカリタス修道女会 管区本部 Tel. 03-3396-2171 ホームページ <http://www.m-caritas.jp/>

Essay

ジョヴァンニ・ボスコ 19歳。 進路への葛藤の日々。

文 ● 浦田慎二郎

ジョヴァンニ直筆のノート
学生らしい落書きもある



キエリでのハードな学生生活

少年時代のドン・ボスコ（ボスコ神父の意）は「ジョヴァンニ」と呼ばれていました。ジョヴァンニは16歳の頃、北イタリアの田舎ベッキ村から「キエリ」という比較的大きな街に勉強のために行きます。やっとその年齢で小学校の課程を終えた彼が、中学1年からの勉強を始めるためにです。もちろん自分よりもいくつか年下の生徒と一緒に。家が貧しかったので、学費と生活費を稼ぐために、勉強をがんばる傍らバイトの毎日です。その頃の彼の様子を簡単にまとめる」と「表1」のような感じになります。

いかがでしょうか。なかなか大変な境遇です。でもその中で彼は精一杯楽しく、がんばっていたのです。彼はどんな性格の少年だったのでしょうか。「表2」にまとめてみました。

司祭になる夢

そんな非常に多面的な性格のジョヴァンニですが、ひと通りするべき勉強を終えた後、自分の進路を決める時がやってきます。19歳の時です。単純に言って、彼には小さい時からの夢がありました。それは9歳の時に見た夢に似たものです。ズバリ、彼は「司祭（神父）になること」をずっと考えていたのです。しかし、ここで彼の真面目でストイック、誠実な性格が前に出てきます。「自分は確かに司祭に向いてい

- 【表1】ジョヴァンニ（16~20歳頃）の様子
- 年齢より下の学年から勉強をがんばる
1年間で2学年も飛び級。
 - 下宿しながら、学費・生活費のためバイトにも精を出す
家庭教師、喫茶店のバーテンダー。
 - 文学が大好き
イタリア古典文学、ラテン語の古典。
 - 多趣味・多芸
奇術、軽業、トランプ、楽器演奏…。
 - 自分の人生全体を導いてくれるような大人を求めている
2歳で父と死別、15歳でカロツソ神父と死別。
 - 子どもや若者と過ごすのが大好き
時間があると彼らのために何かをする。

- 【表2】ジョヴァンニ（16~20歳頃）の性格的特徴
- 熱い心
間違っていることを見たら黙ってられない。時には手も出してしまう。
 - でも基本的には慎重
様子を見ながら、慎重に行動する。
 - 情が深い
友情に厚い。相手のことをとても強く好きになる。
 - 没頭しやすい（高い集中力）
読書しながら気づいたら朝。
 - 誠実
目先の利益で動かない。友情への忠誠。強い感謝の心。
 - リーダーシップ
どこに行ってもリーダー。
 - 自分の長所を素直に認める
自分の頭のよさも、力の強さもよく知っているし、それを隠さない。
 - でも自分の足りないところも素直に認める
足りないところを反省して、自分で修正していく。大人になったドン・ボスコとの違いを見れば実りは明らか。
 - ストイック（自分に厳しい）
自分の夢・目標に向かって妥協しない。

る面もあるけれど、寝ている時に見た夢を単純に信じるわけにもいかないし、自分が本当に司祭としてちゃんとやっていけるのか、自分の心をよ

く見ると自信がない……」というのとす。

じつはその頃、司祭になることは経済的にはなかなかよい話でした。しかし、ジョヴァンニにとってそんなことのために司祭になることは、絶対にありえないことだったので。なるならば、徹底してその道に生きたい、そして何よりも神さまの前で誠実な人間になることが大切、彼はそういう人間でした。

進路に悩み、折る

そんな彼の悩みの一つは、本当に自分の人生全体と一緒に考えてくれる大人が周りにいなかったことでした。そこで一人悩みに悩んだ挙句、彼は「修道会」に入ることに決めます。修道会に入る、ということは、その頃のイメージでは、壁の中の修道院に入って世の中から離れる、というものでした。ですから彼も『自叙伝』の中で「司祭は司祭でも、『修道司祭』になろう。そして世を捨てて修道院にひきこもり、勉強と黙想に専念するのだ。そうすれば孤独の中で、わたしはいくつかの『欲（欠点）』、なかでも、わたしの心の奥底に深く根を張っている『傲慢』と戦うことができるはずだ」とその時の決意を思い出して書いています。

彼は実際、願書も出して許可も



キエリの神学校

得て修道院に入ることになっていたのですが、その後何かと都合が生じて入ることができませんでした。そこで彼は彼の大好きな友人であるルイジ・コモツロにすべてを打ち明けます。この友人にもまだ打ち明けていなかったというところは、彼の非常に用心深い性格をよく表していますが、ともかくこのコモツロは彼の話をよく聞いたうえで、「ノベナ」という9日間の祈りをささげることを提案し、また自分の叔父の司祭に手紙で意見を聞いてみ

てくれることになったわけです。そしてまさにその9日間の祈りが終わった時、その司祭から返事が届いたのです。そこには、ジョヴァンニは修道院に入らず、教区の司祭をめざすほうがよいこと。心配なくとも慎重深く祈りを

人の痛みを分かち合えること
神学校に入ってからジョヴァンニのことで、私が個人的にとっても好きな、あまり知られていない小さなエピソードがあります。彼より1年遅れて、ジャコモツリという神学生が入ってきました。本人（ジャコモツリ）がずっと後に思い出して語っていることですが、彼は訳あって皆より1か月遅れて神学校に来たため、知り合いもなく、少し皆からかわられるような感じだったようで、かなり

寂しく不安な気持ちでした。その時にジョヴァンニはすぐ彼のことに関心して、彼に近づき、気をまぎらわせるためにいろいろ面白おかしい話をし、ずっと彼のそばにいてくれたそうです。そして、ジャコモツリはおかしな形をした帽子をかぶっていたために皆から茶化されていたのですが、これもジョヴァンニが自ら縫い直してくれた、ということ。このジャコモツリは司祭になり、ずっとドン・ボスコの友人として残ります。そしてお互いに告解（神に罪を告白し、ゆるしをいただく恵みのこと）を聞きあう関係でもありました。このエピソードは、ドン・ボスコの繊細さ、心の優しさを表していると思います。彼は常に周りの状況を冷静に見られる人であったと同時に、人の痛みをわかってそれを自然な形で共にできる人だったのです。子どもの頃から苦勞と祈りの生活から、その愛の賜物が生まれたのでしょうか。そして、そんなところが、今も多くの人に愛されている秘訣であるに違いありません。



浦田慎二郎
うらた しんじろう
サレジオ会司祭。
現在ドン・ボスコ研究のためローマに留学中。

信じておまかせぜよ...



今回のへ言っときますけどご人

稲川 孝子 (サレジアン・シスターズ修道女)



若者よ、自信をもちてください！

稲川 孝子 いながわ たかこ
サレジアン・シスターズ修道女
FMA国際ボランティアVIDES JAPAN顧問

自然の恵みに満たされ、美しい国土に住む日本人は、東日本大震災という、人間の力をはるかに超えた自然の力の脅威と恐怖に怯えました。この出来事は地球上のすべての人間への警告でもあります！ 生きていくうえで最も大切なことは？

信をもって前進することです。「自分自身を信じること」はこの地球上で「あなた自身は一人しかない事実」に気づくことでもありません。若いうちに、経験が浅く、知識も少なく、自立できていない現実の中で、自分自身を信じることは難しいかもしれません。しかし、生きることは、自分の足で歩み、自分の頭で考え、識別し、判断し、決定し、行動を起こすことです。「若さ」は、冒険、チャレンジ

に挑むパワーをもっています。この「若者の時代」を逃さず、この世で「自分自身」は一人しかない存在であることの恵みを大切に、自信をもって挑戦してください！

をもって生きる方法を教えたのです。あなたには、「あなた」にしかできない生き方があるはず。その生き方を見つけるチャンスは「今」です！ 神さまはすべての人に「使命」をお与えになり、そのために必要な力を与えてくださいます。若者よ！ 勇敢に、前向きに、恐れずに、自分自身を信じて、「今」すぐに行動を起こし、「神さまがあなただけに与えてくださった使命」を見つけてください。

男

の子が、負けないタフさや起き上がる力をもつ大人に育つための57のルール。サレジオ会の学校で長年多くの生徒や親たちと関わってきた河合恒男神父(日本カトリック学校連合会理事長)が、その豊かな経験をもとに、子育て中の親たちに向けて、温かく、簡潔に語ります。引込み思案、自信がない、自分で決められない...そんな男の子が伸び伸びと育つようになる親の態度。ピンチをチャンスに変える導き方。子どもがやる気をもち自立する関わり方など、具体的なアドバイスも。子どもたちのそばに寄り添ってきた著者の深い愛情に満ちています。

(編集部評)



男子が前向きになる子育て

河合恒男 2011年 191頁
1260円
PHP研究所

ジ

ヤンルとしては絵本に入るのでしようが、一般的に子どもに読んで聞かせる絵本とは異なります。あなたはまず表紙の「しんや」の瞳にとらえられるでしょう。そして比較的文字の多いページを読み進めていくうちに、すてきな「色たち」の深みに沈んでいくでしょう。「ユトリロの白」をご存じですか。近代フランスの画家モリス・ユトリロが描いた壁などは独特な白で有名です。その「すべての色を含んだ」白で船を塗ることを注文する白いドレスの不思議な女性。最後はこの女性に導かれて永遠に旅立っていく「しんや」。この女性は一体だれなのでしょう。(田中評)

ペンキや

梨木香歩 作 出久根育 絵
2004年 47頁
1365円 理論社



本のレビュー

Book Review

評者 ● 田中直美
たなかなおみ
サレジアン・シスターズ修道女

NEW

まごころにひかりを

よくわかるカトリック入門



ガエタノ・コンプリ
2011年 301頁
1029円 ドン・ボスコ社

キ

リスト教や聖書に興味はあるけれど、難しそうだし、入門講座に行く時間はないし...という人に朗報。勉強会では尋ねにくいことや、「こういう問題について、カトリック教会はどう考えてるの?」という質問にも明確に答えてくれる、「若者も大人も楽しく読める」カトリック入門書です。著者のガエタノ・コンプリ神父(チマッティ資料館館長)が長年学校や教会で教えてきた経験が光っています。聖書の教え、歴史、キリスト者の生き方など、質問コーナーをまじえてわかりやすく解説。まず読みたくなるのは、ユーモアたっぷりの天使のマンガかも?(編集部評)

小

児科医として出会った子どもたちの中の何人かを、天国に送らなければならなかった悲しみとやさしさがいっぱい詰まった本です。短くてもしっかりとこの世に根付き、周りの人たちに幸せを返しながら、天に昇っていった「小さいいのち」たちと、そのご家族のエピソードが胸を打ちます。それを綴る細谷先生の言葉の奥に、静けさと安心感が漂っているのは、お遍路さん・俳人としての奥深さが支えているからでしょうか。カトリック信者のご家族がおられ、4人のお子さんたちをミッションスクールに学ばせるなどキリスト教に理解を示しながらも、一人仏教徒を貫き、ご家族のことを「うちのキリシタンども」と呼ばれる先生のユーモアも魅力の一つです。(田中評)

今、伝えたい「いのちの言葉」

細谷亮太

2009年 232頁
1470円 佼成出版社





インド

刑務所の青年たちを
ドン・ボスコが訪ねる

2011年7月9日、コルカタ管区を巡礼中のドン・ボスコの聖遺物は、ベルハンホール刑務所を訪れた。かつてトリノの刑務所に通い、若者たちと出会った司祭になりたてのドン・ボスコが「帰って」きた。

ドン・ボスコ像と聖遺物は、サレジオ会チームが指導する服役中の若者たちによるドン・ボスコ・プラスバンドに迎えられ、子どもたちがドン・ボスコの歌を歌う中、ランプを灯す式が行われた。式に



ドン・ボスコをプラスバンドの演奏で迎える服役中の青年たち

は刑務所視察副長官、管理所長らも列席。

この日のために歌を作曲した服役中のブドウワフ・メテは、涙を浮かべながら歌をささげ、仲間が民族太鼓タブラで伴奏。その中、囚人一人ひとりが聖遺物に近づき、ドン・ボスコと触れ合う様子は、居合わせた人々に深い感動を与えた。

スペイン

ワールドユースデーに
100万人以上の青年が集う

2011年8月16、21日、スペイン・マドリッドでワールドユースデーが開催され、世界各地からカトリック信徒の青年が集まった。日本からは400名近くの若者たちが参

「中国民主共和国」

解放された少年兵の
社会復帰を支援

ニケーションなどについての講話、ドン・ボスコの学校訪問、新会員入会式（若者35名）と、多くを学び、分かち合う4日間だった。最終日のカルチャーナイトでは、参加者がそれぞれの民族衣装で歌や踊りを披露し交流。日本の着物姿に手作りの編み笠を被つての「阿波踊り」も喝采を浴びた。

センターは解放された少年兵たちを迎え入れ、社会復帰の手助けをしている。特に2008年にキウ地方で再び内戦が始まった時、数千人の避難民を受け入れ、国際援助団体の拠点となった同センターは、09年スペイン・ユニセフ委員会から「Los niños primavera」（子どもが第一）賞を受賞。ユニセフ委員会は「戦争、残虐行為、苦しみのさなか、ドン・ボスコ・センターは2万6千人の子どもたちを迎え入れ、教育し、世話し、養った」と評価している。

中国

ゼン枢機卿、国の教育政策に
抗議のハリスト

中国のヨセフ・ゼン枢機卿（サレジオ会）は、2011年10月19、22日、国の教育政策に抗議するため、香港のサレジオ会支部の玄関前で3日間のハリストを行った。

04年教育改正条例で香港のキリスト教学校の管理は、母体である教会・修道会から引き離され、政府直轄の管理委員会に移されるこ



ヨセフ・ゼン枢機卿



ワールドユースデーで日本とイタリアの若者たち

加し、サレジオ家族関係の卒業生、教会の青年も日本の公式巡礼団に加わって多数参加した。

大会期間中は、司教によるキリスト教講座、祈りの集い、ミサのほか、交流イベントなど多数のプログラムが行われた。教皇と共にイエスの受難を黙想する「十字架の道行」には60万人が参加し、教皇司式の閉会ミサには100万人以上が参列。イエス・キリストの名のもとに、教皇の呼びかけに「応え、言語や文化の違いを乗り越えて一つの場所に集まり、「一つの体、一つの心になる教会の体験」をした若者たちの顔は、信仰を証する決意で輝いていた。

また、1週間前からサンティアゴ・デ・コンポステラをめざし100km歩く聖地巡礼のコースに参加した若者たちにとっては、歩きつつ仲間・自分自身・神との対話を深める貴重な体験の機会となった。

とに。政府は透明性と民主的プロセスがより確保されると説明するが、学校側によれば、学校の運営方針に政府を介入させ、これまでの協力関係を損ないかねないという。このハリストは、同条例に反対するカトリック教会の訴えが前週に上告裁で棄却されたことに抗議するもの。

ゼン枢機卿は、「困難な時代に香港の教育のために身をささげ、貴重な遺産を残した人々、特に多くの宣教師たち」を思い、「訴えが認められなかったことは残念。私たちは悲しんでいますが、失望はしません。神は歴史の主。本当のカトリック教育が私たちの学校で提供され続けますように」と語った。心臓病を患う79歳の枢機卿は3日間、水と聖体だけをとりながらも、よい体調でハリストを終了。この間、香港のメディアは大きく報道し、多くの信徒がゼン枢機卿を訪れて励ました。

カンボジア

農村の若者たちに
ウェブデザインの職業教育

2011年10月、カンボジアのケブ国立公園に新しいドン・ボスコ技術訓練校デザイン・ウェブ・ハウスが開校。農村部出身の20名の若者がインターネット技術、ウェブデザ



カンボジアのドン・ボスコ技術訓練校
デザイン・ウェブ・ハウスの学生たち

タイ

サレジオ・コオペラトリー
アジア大会

2011年10月11、15日、タイのバンコクで第7回サレジオ・コオペラトリー・アジア大会が開催された。日本からは会員5名とサレジオ会のアキレ・ロロピアナ神父、サレジオン・シスターズの見城澄枝シスターが参加。「一致するよう呼ばれている。私たちのアイデンティティーを新たにしよう」をテーマに14か国9管区から140名が集まった。

11、12日は管区コーディネーターと担当司祭・修道者の指導者会合、12日夕方から開会、ボナノッテ（就寝前の短い話）では日本管区の丸山和美コーディネーターが東日本大震災の状況を話し、参加者から感動と励ましの言葉が寄せられた。

13日から、コオペラトリーの会則「使徒的生活のプロジェクト」と養成、アイデンティティー、歴史、ドン・ボスコの精神、自立、「コミュ



アジア大会に参加した
サレジオ・コオペラトリーのメンバー

インを学ぶ。

「農村地域の貧しい生徒たちに教育・職業の機会を広げ、学んだ技術を活かして地元マーケットのためにウェブコンテンツを制作、カンボジアや外国の企業にオンラインの可能性を提供することをめざす」と責任者のサレジオ会員アルベイロ・ロダス神父は語る。

ユニセフによれば、農村地域の人々の40%が貧困に苦しんでおり、プノンペン市の10%、他の都市部の25%に比べて高い。カンボジアの人口の74%が農業分野で働いている。デザイン・ウェブ・ハウスは、ドン・ボスコ職業訓練センターの一部として、従来のセンターの役割を大きく前進させる。ロダス神父は「この国の経済が技術や観光の分野で急拡大するなか、農村地域の若者や都市の貧しい若者たちが取り残されるようなことがあつてはならない」と強調している。



アフリカ・ケニア

ドン・ボスコの聖遺物
アフリカ巡礼始まる

数か月にわたって巡礼したインド・スリランカを後にし、ドン・ボスコの聖遺物は2011年12月1日、ケニアのナイロビ空港に到着。アフリカ巡礼が始まった。

聖遺物は東アフリカ管区の管区長館に直行、ジャンニ・ロランディ管区長らサレジオ会員に迎えられ、祈りの時を過ごした。翌2日早朝から、エンブやマクウのサレジオ会、サレジオン・シスターズの学校やセンターを訪問。多くの会員、子ども、若者、地方の村から駆けつけた人々に囲まれ、各地域の司教によるミサもささげられた。エンブのカリウキ司教によるミサでは16人の少年が堅信を受け、ムランガのワイナニア司教司式のミサ後は終夜礼拝が行われた。ドン・ボスコはマサイ伝統の歌や踊り、詩の朗読、荘



ケニアの人々に歓迎される
ドン・ボスコの聖遺物

厳な行列、楽しい余興によって歓迎され、皆がドン・ボスコと語り合うひと時をもった。
ドン・ボスコの聖遺物は、これからアフリカ各地で難民キャンプや貧しい人々の中で働くサレジオ家族のもとを訪れる。

南スーダン

世界一若くて貧しい国
南スーダンで働くサレジオ家族

2011年7月に独立したばかりの南スーダン共和国。石油資源や民族間をめぐる長年の内戦で荒廃し、経済・交通・教育などほとんど整備されていない。そんないちはん若くて貧しい国の人々と共に、サレジオ家族が働いている。

韓国
リ・ソテク神父の遺志を継いで
信徒宣教師をスーダンへ派遣

2001年、韓国からスーダンに宣教師として派遣され、10年が経つため47歳で亡くなったヨハネ・リ・ソテク神父。彼は医師・音楽家・教師・サレジオ会司祭として、南スーダンの人々に生涯をささげ、多くの支援により小さな診療所とプラスチックバンドを創設。ハンセン病の治療や、内戦で荒廃したトンジのキリスト者共同体・学校の再建に



南スーダンの生徒たち

さい。「100校プロジェクト」に協力をお願いしたいのです。100校のプレハブ校舎は、2億円でまかなえる予定です。

もあたり、快活で若者との友情にあふれていた彼は、Gary Jokin(楽しい神父)と呼ばれ親しまれた。韓国のテレビ局KBSが制作したドキュメンタリー番組は数か国語に訳され、世界各地で話題となっている。スーダンのサレジオ会事業を助ける「ヨハネ・リ基金」には3万人が関わっている。

スーダンへの継続的協力を約束していたサレジオ会韓国管区は、2011年7月15日、南スーダンに2年間派遣する4人の信徒宣教師を任命。派遣されたのは、共に医師のマティアス・リユーとレジナ・キム夫妻、エンジニアのフランシス・ソンと建築家のクララ・リ夫妻。4人は定年を迎え、何か意義のあることをしたいと願っていたところ、リ神父の生涯を知り、彼が献身したアフリカで働きたいと志願。韓国管区から1年間の養成を受けた。



難民キャンプで医師として診療所を開き、少年プラスチックバンドを創設、「楽しい神父」と呼ばれたヨハネ・リ・ソテク神父

韓国管区長ステファン・ナム神父は派遣される4人に、「皆さんの時間、才能、持ち物、そして心に

日本の皆さんはこのたびの大震災で大きな苦しみを経験されましたが、勇気をもって知恵と助け合いによって試練に立ち向かっておられます。私は神さまと、皆さんの寛大な心に信頼します。私は84歳で片足が悪く、手も震えています。が、最後までアフリカの子どものために働きたいと願っており、この思いは私を幸せにしてくれます。皆さんのためにお祈り致します。

いつも運ぶ福音を分かち合うことは、地上でキリストの使命を果たすこと。宣教師の心をもって、子どもたちや貧しい人々にイエスの愛をもたらしてください」と励ました。

イエスのカリタス修道女会
5人の宣教師を南スーダンへ派遣

2011年10月23日、イエスのカリタス修道女会は、5人の宣教師を南スーダンへ送るため、同会総本部があるイタリア・ローマのサクロクオーレ大聖堂で派遣式を行った。2012年に創立75周年を迎える同会にとつて初めてのアフリカ大陸の共同となる。派遣されるのは下崎優子修道女と韓国人修道女3人、ブラジル人修道女1人。彼女たちは言語習得とアフリカでの生活に慣れるため、ケニアのサレジオン・シスターズの家でしばらく生活した後、スーダン入りする。



南スーダンへ派遣される
イエスのカリタス修道女会の5人のシスター

南スーダンは北と南が平和協定した05年まで絶えず紛争が続き、

◆南スーダン100校プロジェクトのため
ご寄付のお願い
下記の振込口座まで(または本誌とじ込みの
払込用紙にて)ご寄付をお願い申し上げます。
郵便振替
口座番号 00100-7-412947
加入者名 「ドン・ボスコの風」編集事務局
※通信欄に「南スーダン100校プロジェクト
のため」と明記してください。

ヴィンチエンツォ・ドナーティ神父は、かつて宣教師として来日。1960年代に韓国へ派遣され、その後「最も貧しい子どもたち」に奉仕したいと願い出て80年代スーダンへ渡り、今日に至るまで同地で活躍している。

南スーダン宣教師
ドナーティ神父より HELP!
「100校プロジェクト」に
ご協力を!

皆さんもご存じのとおり、最近南スーダンは独立国となりましたが、人々の生活は食料、水、電気、コミュニケーション手段、教育などに事欠いています。職を求めて北に移住していた人々が南に戻る現象が起こり、人口が急増しています。学校が少ないため、サレジオ会は小学校の建設を始めました。まずごく簡単な造りで、100校を建てる必要があると考えています。南スーダンの人々、子どもたちの置かれている状況を見に来てくだ

ペルーより感謝のお便り

「ドン・ボスコの風」はペルーのスラム街に吹いて!

前号で紹介され、皆さま方から贈られた愛の支援金は、マリアタキ保育園の保育室建築資金に使用させていただきました。感謝を込めてお知らせいたします。長い間、人々から忘れられていた砂漠地帯の不毛の地は、今きれいになり、人々の注目を集めています。神のみが報いてくださる人知れぬ皆さま一人ひとりの心からの愛のあふれである献金



は、貧しく素朴な人々と子どもたちの心を喜びで満たし、日々、成長させてくれています。昼間でもアルコール、麻薬の患者のいるビヤマリアの貧民街は、タクシーの運転手や一般の人々も行きたがらない場所です。

キリストのことは「恐れるな、

私は、いつもあなたと共にいる」に勇気づけられ、また聖母と共にロザリオの聖なる武器を手につまぐりながら、足取り軽く、喜びと希望の福音を告げるのです。昨日も、今日も、そして明日も、時にはリズムミカルな聖歌を口ずさみながら……。皆さまのお祈りに支えられて! ありがとうございます。

ペルー・イエスのカリタス修道女会 シスターズより



サレジオ会の養護施設で音楽を教える



幼稚園児に折り紙の授業

Сайн Байна уу?
 サインバエフ? お元気ですか?
 朝青龍や白鵬でおなじみのモンゴル国。草原のイメージが定着したチンギス・ハーンの国。みなさまはモンゴルに足を運んだことがおありでしょうか? テレビで紹介されているとおり大草原があり、首都ウランバートルには旧ソビエトの名残を思わせるソビエト式の建物がいち並ぶ風景も見られます。歴史の教科書では「元寇」でもおなじみですし、小学校の国語



ダルハンにて小島華子シスター。冬は-40℃近くまで冷え込むことも

国、フィリピン、オーストリア、日本からのシスターたちで構成されています。さらに来年はインド人のシスターがメンバーとして加わる予定です。未だ、独自の事業をもちていない私たちは、語学を学びながら自分のできることを探して毎日の務めに励んでいます。サレジオ会の専門学校の英語や秘書コースの教師、ゴミ処理場の周りに住んでいる貧しい人々への物資援助、教会活動への奉仕などです。私はカトリック教会青少年委員会のメンバーとしての若者への奉仕と、シャルトル聖パウロ修道女会の経営する幼稚園で保育と折り紙の授業をしていました。

カトリック小学校建設は資金難に直面
 私たちは修道会の最初の事業として、モンゴル第2の都市、ダルハン市に幼稚園を設立する予定でしたが、なんと神さまは、司教の学校の運営に当たるといいう違う計画をもっていらつしやいました。2012年9月からスタートするモンゴル初のカトリック小学校が私たちにゆだねられたのです。司教は幼稚園から大学までのカトリック一貫校を作り、教育をとおして神と共に生きる喜びを多くの人に伝えるという意向をもつておられ、まず手始めに小学校を建て、続いて幼稚園、中学、高校、大学を建設するという展望をおもちでいらつしやいます。しかし、まだ小学校校舎が完成していない今の時点で、すでに資金不足という問題に見舞われています。モンゴル国には建築資材がほとんどなく、中国から輸入しなければなりません。建築予算を大幅に超えて、今資金をどう工面しようかと頭を悩ませておられます。

で習う物語『スーホの白い馬』に出てくる民族伝統楽器「馬頭琴」(モンゴル語でモリンホル)の国です。1990年のペレストロイカ(ソビエトの政治改革運動)をきっかけに、70年に及ぶ旧ソビエトとの盟友関係から離れ、この国は民主化の道を選びました。アジアの中にありながらアジア色を色濃くもたない、かといってヨーロッパに属しているとも言えない、ちょっと不思議な文化をもち合わせた国。子どもたちは人懐っこく、人々はとても親切で、一



モンゴルの大地にて

サレジオン・シスターズ修道女からの便り

度出会うだけで家族の一員のよう受け入れてくれる温かい国民です。

国際色豊かな宣教師たちと一緒に
 1992年にモンゴルの地に最初の宣教師団が到着してから、モンゴルカトリック教会は2012年で宣教20周年を迎えます。5名の教区司祭と61名の修道者(11の修道会)、そして6名の信徒宣教師、計72名で構成されるこの国の必要性に応じて各自の特徴を生かしながら宣教活動を行なっています。

モンゴル政府は教会外での宗教活動を禁止しているため、学校でお祈りをしたり、マリアさまや十字架を飾ったり、宗教の授業をすることを許可していません。宗教の自由を認めていると言っても、これでは思ったように宣教活動ができないのです。カトリックの要素を出せないカトリック学校をどう経営し、どのように教育活動を行つていけば福音宣教の場となるのかは、私たちの手腕にかかっているとも言えそうです。

ザビエルはなぜ宣教できたのか
 カトリック教会の土台が浅い中で福音宣教の大変さ、難しさは、私の予想を超えていました。今、本当に聖フランシスコ・ザビエル



ダルハン教会での夏のキャンプで子どもたちと

私たちはサレジオン・シスターズは、2006年に最初の宣教師がこの地に足を踏み入れて宣教活動が開始され、私は第4回目の宣教師として3年前に派遣されました。国際色豊かな共同体で、韓



ミサの後で若者たちと



留学生の歌のコンテストで銀賞を受賞! (右から2番目)

小島華子(こじま はなこ) サレジオン・シスターズ修道女。2009年よりモンゴル国で宣教師として活動。

モンゴルの小学校建設のためご寄付のお願い
 下記の振込口座まで(または本誌とじ込みの振込用紙にて)ご寄付をお願い申し上げます。

郵便振替
 口座番号 00100-7-412947
 加入者名 「ドン・ボスコの風」編集事務局

※通信欄に「モンゴルの小学校建設のため」と明記してください。

の偉大さを身にしみて感じます。辞書も本もなかった時代にどうやって神さまを伝えていったのか、日本人に理解しやすいうようにどのような工夫をして福音宣教をしていったのか、いろいろな面で今の時代よりも不便なことがあった時代に、どのように生きた神の証として生きられたのか等々、たくさん問いが生じてくると同時に彼の偉大さを実感させられます。

政治、経済、教育など、すべての面で今から発展していくモンゴル国にあつて、人間形成に一番重要な教育を使命としていたたいっている私たちが、ドン・ボスコの予防教育法をとおして全人間教育をめざしつつ、たくさんさんの限界や障害がある中でも神さまのお望みが実現するための一つの道具として命を賭けていきたいと思えます。★

「医者、しかも救命救急医になつたきっかけは？」

実家が産婦人科の開業医でしたから、親や周囲の期待はありました。でもあまり勉強せず、結局、試験のやさしい私立大学の医学部に入りました。卒業近くになって将来どうしようと思った時に、自分の家を継ぐより別の道を選びたかったのです。考えた末、これまで自分が苦勞することをせすぬくぬくと生きてきたのだから、医者になったら一番忙しい科に行こうと考えました。自分の卒業した大学の病院には救命救急センターがあり、3日に一度は当直で、同級生よりも倍以上仕事をすることをやり一人前になるのが早いと聞いていたのでござい、と。

「そのままずっと27年間、救命救急の現場にいて感じることは？」

世の中不条理だなと感じることがたくさんあります。救命救急は、急病、事故などでの死の現場に立ち会います。とてもいたたまれなく、つらいです。逆によく助かったということがあります。でも、その時自分たちが助けたという思いは一つもなくて、助かるべく何かほかの力

連載インタビュー

DBの★教え子たち★

「バレエを始めたきっかけは？」

身体の柔らかかった私を見て、宝塚歌劇団が大好きだった祖父がバレエを勧めてくれたのをきっかけに4歳から始めました。法村友井バレエ団付属のバレエ学校で週4回のレッスンは厳しかったですが、仲間たちと作品を作り上げ舞台に立つことが楽しく、続けることができました。しかし、プロになるには厳しい世界、バレエ団に入れるとは夢にも思いませんでした。母は宝塚音楽学校を勧めてくれ、私もミュージカルの世界に挑戦しましたが、やはり幼い頃から生活の一部となっていたバレエを続けていきたいと思ひ、高校卒業後、中国の上海市舞踊学校に1年間留学。帰国後、団長の勧めで法村友井バレエ団に入団しました。

「バレエダンサーとして大切にしていることは？」

見に来ていただくお客様は、その日が初めてで最後かもしれないかもしれません。お客様にはそのひと時を喜んでいただけるよう、感動をお届けできるように舞台を大切にしたいと思っています。そして、芸術には完成がありません。はまり役の時もあれば、新し

が働いているんだろうなということを実感できます。

「日向学院で培ったことで今生きていることは何でしょうか？」

習ったことで今でも役立つものもありませんが、一番はあの学校は神さまを教えてくれたこと。この仕事を始めた時、あまりにつらくてやっつけられないと思ひました。その時に救いを求めたんだと思ひます。そして、最大限に生かしてほしいです。

「必ずなんらかの自分のタレントがある。」



柔らかい眼差しの奥に芯の強さを感じる語りが印象的だった

No. 4 ★

聖路加国際病院救急部部長・医師
いしまつ しんいち
石松 伸一 さん



日向学院中学校・高等学校
宮崎県宮崎市大和町 110
www.hyugagakuin.ac.jp

聖路加国際病院



© 尾鼻文雄

法村友井バレエ団・ソリストダンサー
さの ゆうこ
佐野 裕子 さん No. 5 ★

★サレジオ歴★ 城星学園小学校・中学校・高等学校卒業

プロフィール

1981年生まれ。1999年中国上海市舞踊学校留学。上海バレエ団の舞台に出演。帰国後、法村友井バレエ団入団。ソリストとして数々の舞台に出演。法村友井バレエ学校で指導に携わり、外部スタジオでも講師、ワークショップを行う。趣味はバレエ以外の舞台鑑賞(バレエも観ますが…)。



© 尾鼻文雄



バレエ教室の生徒たちにレッスン中

い自分を作り上げなければいけない時もあります。任された役割を妥協せずに追求することがプロとして忘れてはいけないことだと思ひます。

「後輩たちへのエールを。」

バレエは身体ひとつで伝えるなければいけません。同じ作品でも踊る人の性格が表れ、全く違うものに生まれ

ます。私の踊りは他の人になんかさ、優しさがあると言われます。それはこの学園で12年間穏やかに育つことができたおかげかもしれません。私は無口で大人しい生徒でしたが、これを私らしい個性として表現できるバレエを続けているのだと思ひます。現在、将来に希望がもてず夢が

ないという子が多いと聞きます。しかし、いつも見ていると聞きます。身についているはずですが、他人の目を気にせず、自分を信じ、強い意志をもって進んでほしいと思ひます。きっと、道は開けていくはずですよ。



城星学園中学校・高等学校
大阪府大阪市中央区玉造 2-23-26
www.josei.ed.jp

ともだちへ

文・ノゾエ征爾
絵・おむらまりこ

こんにちは。
僕です。君が東京を離れてしばらく経ちますが、お元気ですか？

僕はと言うと、風邪をひきました。今とっても寒いし寂しいです。風邪の寝床の中で、君のことを考えていました。

君と出会ったのは、中学一年生の時。僕の前の席の、授業中よく寝ている男が、君でした。当時は、全然ともだちではありませんでした。

中学の思い出はたくさんあります。部活や、学園祭や、勉強合宿や。

そのどの思い出にも、君はいませんでした。

僕は真面目グループ、君はやんちゃグループにいたからです。君らの煙草が先生に見つかった時は、さまざまと思っただけです。

そんな素行が原因かは分からないけど、君は成績がよくなったにもかかわらず、僕と同じ高校になりましたね。高校の最初の日、君が同じクラスにいた時は、かなり驚きました。

そんなある日、君が突然CDを一枚貸してくれました。ビートルズでした。なんで今頃ビートルズ？と思ったけど、

ちゃんと聴いてみると、すごくカッコよくて、部屋で一人興奮したのを覚えていてます。

そのあと、何度かCDを貸し借りしたり、何度か一緒に帰ったり、二度ほどボーリングに行ったりして。

君と、ともだちになれた気がして、僕は、すごく嬉しかったです。

君が、彼女がいるにもかかわらず、別の女子高の子と合コンしようとしていた時、僕が「彼女が可哀想じゃん」と言うと、君は「おまえ硬いんだよ」と少し怒ったように言いました。僕は、君に嫌われた気がして、ちょっと落ち込みました。

今思うと、僕は君と、どこか頑張った「ともだち」でいようとしていた気がします。好かれない。嫌われたくない。そういうことばかりを考えて、接していた気がします。

でも君は、もっと自然だった。マラソン大会の時、僕が、今にもくじけそうになっていたところ、不意に君が横に来て、「一緒にゴールしようぜ」と言いました。

僕はとても遅いから、きっと君は、いずれ先に行ってしまうだろうと思っ

たけど、結局、君は、本当に一緒にゴールしてくれました。

あの時は本当に嬉しかった。君のおかげで最後まで走りきることもできた。逆に君は、本来の順位よりだいぶ下がってしまった。あの時も、「ありがどう」と「ごめんなさい」をちゃんと見えなかった事をすごく悔やんでいます。

でも、君には君の、仲良しのともだちがいて、僕にもそれはいた。なので、僕の、ともだちトップ5、には、君はいませんでした。

そうしてあの日です。大学受験の日。君の第一志望の大学。僕も記念受験という感じで受ける事に。大雪のその朝、僕は雪に滑って、頭を強く打ちました。体が動かなくて、声も出なくて、人も誰も通らなくて。僕は寒くて怖くて孤独で……。そこに偶然現れたのが、君でした。倒れている僕を見て、笑っていました。なんて非情な奴だと思ったけど、君は、そのままずっと、そばにいてくれました。

そして君は、第一志望の受験を逃しました。君が、なぜ、僕なんかのためにそこまでしてくれたのか。君は「ともだちだから」と言っていたけど、その時はよく分かりませんでした。

そうして君は、四国の大学に行くこと

になり、僕は今、東京の平凡な大学生です。

今、僕は、部屋で一人、風邪にうなされ、とても寂しい気持ちです。ビートルズを聞いています。ビートルズを聞きながら泣きました。君の有難さをようやく実感して泣きました。君こそが本当の「ともだち」だったのだと泣きました。今にも君が、みかんでも持って部屋にやって来るのではないかと、何度も部屋のドアを

見てしまいます。

でも、君は、もういません。四国にもいません。四国に行く前に、天国に行ってしまった君。君が、身代わりになって助けたおじさんも、きっと、君にとって「ともだち」だったんだね。

ともだちよ。そちらはどうですか？君のことだから、きっとすぐに、たくさん「ともだち」ができていますことでしょう。

いつになるか分からないけど、僕がそっちに行く時には、これまでちゃんと見えなかった言葉を言わせてください。ごめんなさい。そして、たくさん、たくさん、ありがとう。そしてまた、CDの貸し借りとかしまししょう。どうかそれまで、たくさん「ともだち」と楽しくお過ごしください。

ともだち代表・僕より



私は天国でみんなが会えることを望んでいるよ。
その時は盛大にお祝いしよう。

ドン・ボスコの言葉 ～完訳ドン・ボスコ伝 P.164～

ノゾエ征爾 のぞえせいじ

サレジオ学院中学校・高等学校卒業。脚本家、演出家、俳優。大学在学中より劇団「はえぎわ」を主宰。舞台、映画、テレビ、ラジオ等で活躍中。
www.haegiwa.net

おむらまりこ

目黒星美学園小学校 図工科教諭。武蔵野美術大学院修了。絵本に「はいいろのこひつじ」「たいせつなおくりもの」「ヨハネ・ボスコ たいせつなゆめ」。イラストに「森本千絵うた作品集」。



チエチリア祭（年に1度志願院で行う文化祭・感謝の集い）でのバンド演奏のひとつコマ



料理の真っ最中



サッカー



ソフトボール



2011年2月、ドン・ボスコの聖遺物を四日市に迎えた際のイベント（アカデミア）で出し物



教会の子どもたちの1泊錬成会でリーダーをする志願生



登山



Ciao!
チヤオ!

サレジオ家族探訪

Salesian Family Visit

ドン・ボスコの精神を受け継いで、日本各地で活動するサレジオ家族の修道院・学校・教会・施設などを探訪。各地の「ドン・ボスコらしい、サレジオ家族らしい風景」をお届けします。

ドン・ボスコ、 ついて行きます！

三重県四日市市

四日市サレジオ志願院

四日市はその昔から東海道の宿場町として発展してきました。旧東海道の史跡が現在も多く残っています。四日市から京都寄りの次の宿・石薬師に向かう中間点付近には、「日永の追分」と呼ばれる東海道と伊勢街道の分岐点があります。かつて草津・京都へ向かう旅人は、ここから右へ進み、伊勢神宮へお参りする人は左へと巡礼の旅を続けました。その追分のすぐそばに四日市サレジオ志願院があります。

サレジオ会員が四日市にやってきたのは今から17年前の1995年。野球やサッカー、フencingなど知られる海星中学高等学校の母体であるエスコラピオスの修道院を間借りしてジミニア志願院を開設。5名の志願生で始まった志願院は2006年には25名を数え、多くの方々の寛大な協力により翌年には高校棟が新しく建ちました。2011年度は19名の中高生が共に生活しています。

親元を離れ、自分と向き合う

「志願生」（小神学生）と呼ばれるこれらの中高生は、将来サレジオ会の司祭（神父）もしくは修道士になることを望み、サレジオ会の修道院で共同生活をしていきます。中高生の段階でそのように決意し、親元を離れて生活するのは早すぎるのではないかと思われるかもしれません。しかし、神の呼びかけに年齢の制限はありませんから、青少年の段階でもその呼びかけを感じ、応えることは可能です。ただし、容易な決断ではありませんので、その気持ちをより深く見詰め成熟させるための手助けをするのが志願院です。自分の将来についての決断を先延ばしにすることなく、人生について真剣に考える環境を提供し、人とぶつかりあって自己を形成する機会に乏しい現代において、共同生活の体験は子どもたちを成長させます。

教会・学校・運動場・家庭

志願院の生活は、ドン・ボスコが始めたオラトリオ（祈りの家、寄宿学校）の4つの要素を今もよく受け継いでいます。まず「教会」。すなわち、祈りの生活です。司祭・修道者をめざす者の生活は、キリストとの関わりなしには成り立ちません。ものすごくたくさん祈りの時間があるわけではありませんが、若者らしく元氣よく祈り、日々の出来事を祈りにつなげるように指導しています。

次に「学校」です。勉学を大事にします。この世界の成り立ち、人々の思想・理想など、様々なことを学ぶことは大切です。そして、得た知識が自己のためだけに終わらぬよう、いつも勉強前に次のように祈り求めます。「私たちが真の知恵を求め、それを人々に分かちあうことができるよう私たちの心を清めてください。」

「運動場」という要素もあります。体を動かして遊ぶことです。ほぼ毎日、サッカーかバスケットをしています。夏にはソフトボールもしますし、海や川で泳ぐこともしばしばです。スポーツのない志願院は考えられません。若者のもっているたくさんのエネルギーが弾けます。元氣で健康な体づくりと同時に、互いにおつかりながらチームワークも身につけるでしょう。

もう一つは「家庭」です。志願院は「わ

が家」を感じることでできる場所づくりを心がけています。くつろぎ、和んだ雰囲気味わうと同時に、一人ひとりが責任感をもつて役割を担い協力する一つの家をつくっています。同じ釜の飯を食べた仲間はずっとして兄弟以上の絆を結ぶこともあるかもしれません。

くじけない喜びの精神を培う

志願院全体は明るい雰囲気にも包まれています。若者らしい陽気さ、賑やかさにあふれています。「聖なる快活さのうちに主に仕えよう」とドン・ボスコは言いました。心から喜んで自分をキリストにささげる生き方というのは、何もそんなに難しいことではないのかもしれませんが、ドン・ボスコはずべての青少年にそのように望んでいました。ドン・ボスコもついていた、困難に出会ってもくじけない喜びの精神を培っていききたいものです。

（文・写真／四日市サレジオ志願院提供）



四日市サレジオ志願院

三重県四日市市追分 1-8-26

<http://www.donboscojp.org/sdbyokkaichi/>

ブログ <http://sdbyokkaichiasp.blog114.fc2.com/>



フランシスコ・サレジオの肖像画の「つまようじアート」。全校生徒で2年間かけて作成。使ったようじは96,900本!



2011年2月、ドン・ボスコの聖遺物が静岡を訪問。たくさん子どもたち、教職員、同窓生たちに囲まれて



中高クリスマス会の様子



2011年5月、上智大学と静岡サレジオが教育提携を結んだ



国吉健二園長と園児たち

祈り、人の役に立つ 喜びを大切に

静岡県静岡市

静岡サレジオ (幼稚園・小学校・中高一貫教育学校・高等学校)

ドン・ボスコが日本を駆け巡った2011年2月。富士山を仰ぐ静岡の地でも、盛大な全校ミサが執り行われました。ひびきわたる天使のような子どもたちの歌声に、ドン・ボスコもさしほぼえんだことでしょうか。「夢に見た富士山のおもともども、わたしの心が生き続けている」と。

幼小中高生が 遊び・学び・祈りの空間を共有

終戦後間もない1947年、静岡サレジオは駿府城のお堀端から現在の草薙の地に移転し、その7年後に現在の学園の基盤となる幼小中高の4校種からなる総合学園となりました。以来、家庭的雰囲気の中で、校訓の「誠実・勤勉」をモットーに教育活動に励んでいます。

幼小中高が同じ敷地にあると、こんな光景が。中高体育祭では小学生や幼稚園児がグラウンド脇で黄色い声援を送り、クリスマス会では幼稚園児が演じる聖劇を観賞した中高生がその純粹さに心洗われ、幼稚園の預かり保育ではボランティア体験で顔見知りになった中高生が園児の人気者として活躍しています。遊び・学び・祈りの空間を共有しながら、千名を超える発達段階の異なる児童・生徒たちが、日々幅広くかわり合っています。

祈りとボランティア活動

本校は祈りを大事にしています。職員



幼稚園児から高校生まで一緒に(聖堂で)



祈りを大切にする伝統

朝礼・職員会議、生徒朝礼・終礼、宗教の授業、大きな行事などは必ず祈りで始める伝統があります。年間を通じて聖母祭、ロザリオの祈り、慰霊の集い、創立記念ミサとクリスマスの集い、ドン・ボスコの集い、卒業を控えた高校3年生の静修の日などの宗教行事があります。このような機会をとおして、謙虚な心、感謝する心が浸透していきます。

人の役に立つ喜びを体験できるボランティア活動も奨励しています。暑中見舞いやクリスマスカードを作って近隣の高齢者施設に届けたり、あしなが募金活動に参加したり、フィリピンへ海外ボランティアに出掛けたりなど、精力的に活動しています。

カトリック学校で学ぶ人材を世界へ

静岡サレジオは新たな挑戦の一步として、上智大学との教育提携を始めました。幼稚園から大学まで、一貫してカトリック学校に学び、その精神を身に付け、宗教教育を土台に論理・表現・コミュニケーション力を伸ばし、国際貢献できる人材を育成することを目標に、上智大学への特別推薦枠

が2012年度入学者より設定されます。静岡サレジオ小中高校はこれに伴い、従来の6-3-3型の教育システムから、4-4-4制(前期・中期・後期制)へと移行します。「前期」(小1~小4)では、学びの基礎・基本と学習習慣、人を思いやる心を育みます。発達上多くの壁にぶつかる「中期」(小5~中2)では、学習や諸活動で成功体験を積み重ねながら、自分を大事にし、仲間を思いやり、人のために奉仕できる環境を整え、対人関係の悩みなどを乗り越えていけるように教職員はチームワークを密に生徒を支えます。「後期」(中3~高3)では、心身の安定感と落ちついた学級風土の中で学業に集中し、個性に見合った進路達成と自己実現をアシストします。

現代の若者たちに、希望とビジョンを

時のしるしに敏感だったドン・ボスコは、この新たな挑戦をとおして現代社会に生きる若者のニーズに答えていけるよう、きつと応援してください。子どもたちは物心がつく前から携帯電話やインターネットに囲まれ、家庭、学校、社会をめぐる状況は大きく変貌しています。不安と無気力の闇に揺れる若者たちに、どんな希望や明るいビジョンを育めるか、静岡サレジオの挑戦は始まったばかりです。

(文・写真/静岡サレジオ提供)



静岡サレジオ
(幼稚園・小学校
中高一貫教育学校・高等学校)
静岡県静岡市清水区中之郷3-2-1
www.ssalesio.ac.jp/

PRESENT ドン・ボスコの風 読者プレゼント

応募方法: お名前(フルネーム)・住所・年齢・ご職業とご希望のプレゼント(A・B・C)いずれか一つを明記し、本誌のご感想をお書き添えの上、Eメールまたはハガキで下記宛先までお送りください。
[Eメールの場合] DB-no-kaze@donboscojp.org
[ハガキの場合] 〒160-0004 東京都新宿区四谷1-9-7 ドン・ボスコ社内 「ドン・ボスコの風」編集事務局
応募締切: 2012年3月31日消印有効
当選者の発表は、賞品の発送をもってかえさせていただきます。ご応募いただいたお客様の個人情報は賞品の発送のみに使用し、その他には一切使用致しません。

A DVD ドン・ボスコ (新装版) 愛と信頼、強い心で少年たちを育んだ真の教育者、ドン・ボスコの姿が美しい映像でよみがえる。イタリア国营放送の感動の作品。 5名様
B チマッティ神父 本人が書かなかった自叙伝(上) 日本最初のサレジオ会宣教師、チマッティ神父の約1万通の手紙と貴重な写真から、その生涯と日本での事業の草創期をたどる。 5名様
C 天使と幼子 ハート型卓上板絵 ハート型に天使と幼子が描かれた、イタリア製のかわいい板絵。壁に掛けても、スタンド付きなので立てかけて飾ることもできます。 5名様

from the Editor 編集後記
ドン・ボスコ生誕200周年を迎える準備期間に入りました。彼の人生には幼い時から多くの困難がありましたが、聖母マリアの助けにより神さまが望まれた夢を徐々に実現していきました。まず母親のマルゲリタからジョヴァンニ少年に宗教心が深く伝えられ、学校に通いながら模範となる仲間や司祭と出会いました。今号の「ドン・ボスコの風」では様々な方がどのように神さまから与えられた使命を実現しようとしているかが紹介されています。私たちの夢が、イエスさまが宣言した神の国の実現と一致するよう祈り、また同伴して下さる方の助けを求めましょう。(M)

ドン・ボスコの風 No. 8
SALESIAN BULLETIN January 2012
2012年1月31日発行(年2回発行)
編集人 山野内 倫昭
発行人 アルド・チブリアニ
発行所 カトリック・サレジオ修道会 「ドン・ボスコの風」編集事務局
〒160-0004 東京都新宿区四谷1-9-7
ドン・ボスコ社内
電話: 03-3351-7041
Fax: 03-3351-7042
Eメール: DB-no-kaze@donboscojp.org
編集・デザイン制作 ドン・ボスコ社
印刷所 日之出印刷株式会社
本誌掲載の記事、写真、イラストの無断転載を禁じます。
© カトリック・サレジオ修道会 2012

次号No.9は2012年夏発行予定です。「ドン・ボスコの風」バックナンバーは、サレジオ会ホームページ http://salesians.jp でご覧いただけます。
トップページの「ライブラリー」→「ドン・ボスコの風」
本誌表題そばに従来イタリア語で表題(Bollettino Salesiano)と発行年月を表記していましたが、読者からのご意見により、今号からわかりやすく英語表記に変更いたしました。

いつもよいものを—ドン・ボスコ社— キリスト教書籍・聖具・聖品
ネットショップ www.donboscosha.com/
〒160-0004 東京都新宿区四谷1-9-7 TEL. 03-3351-7041 FAX. 03-3351-5430
NEW こころにひかりを よくわかるカトリック入門
若者も大人も楽しく読める わかりやすいカトリック入門書。
旧約・新約聖書の教え、救いの歴史、キリスト者の生き方などのカテキズムを、聖書をひも解きながら、質問コーナーをまじえ、わかりやすく解説。
A5判並製 301頁 定価1,029円
チマッティ神父 本人が書かなかった自叙伝(上)
—激動の昭和史を生き抜いた宣教師—
日本を愛した宣教師、チマッティ神父の約1万通にのぼる書簡や文書から師の生涯をたどる。「ほほえみ、慈愛と祈りの人」として知られる師が、困難、貧困、無理解に耐える不屈の精神によって、激動の時代の荒波を越えていく姿を知ることができる。
A5判上製 479頁 定価1,890円

ADMAに17名の入会式。数十年ぶりに再発足
2011年8月3〜6日、ポーランドで開催されたADMA国際大会には、日本からも3人の会員と山野内倫昭神父が参加。サレジオ会家族の様々なグループの代表者が出席し、世界25か国から1100人が集まった。今大会では、ドン・ボスコの扶助者聖マリアへの信頼、サレジオ家族にとつての扶助者聖マリアにつ



ADMAに17名の入会式。数十年ぶりに再発足

被災者支援チャリティコンサート
2011年10月8日、イエスのカリタス友の会は「東日本大震災被災者支援チャリティコンサート」を開催。会場はイエスのカリタス修道女会管区本部修道院講堂は約300名の来場者で満席となった。瀬田の丘コスベルファミリー、西田ファミリー、同会シスターたちのスモークワイアが出演。心と体、カと祈りがこめられた音楽と、来場者の被災地を思う心が一体となったコンサートとなった。被災地ボランティアの報告も行われ、被災者のために祈り、来場者全員で歌う場面も。チケット代と寄付金、ミニバザー収益の全額約75万円が被災地に義援金として寄付される。イエスのカリタス修道女会ではこのほか、シスターズリレーへの修道女の派遣、南二陸町など被災地でのミニコンサートを継続して行っている。



未来を信じ、復興への願いをこめて。スモークワイアによる歌

東日本大震災犠牲者鎮魂ミサ
2011年10月9日、福島県南相馬市のカトリック原町教会で、東日本大震災の犠牲者鎮魂ミサが行われた。仙台教区の平賀徹夫司教、東京教区の幸田和生司教はじめ、原町教会と松木町教会の司祭・信徒、サレジオ会からサレジオファミリーとADMAのメンバー、サレジオ会の山野内倫昭神父・鳥越政晴神父、サレジオ学院の中3生徒2名を含む総勢約80名が参加。被災で10名足らずになった原町教会にミサの祈りと聖歌が響き渡った。震災後、被災者である福島市の松木町教会の信徒たちは、より困難な人々へのボランティア活動が続けてきたが、カトリック共同体として被災の現場で犠牲者への祈りをささげることが切望。原町教会での鎮魂ミサの前に、津波ですべてさらわれた南相馬市の北泉海岸で花束をささげ、アヴェ・マリアを歌い祈った。
星美学園小学校聖歌隊
NHK全国学校音楽コンクールで金賞
星美学園小学校聖歌隊(東京都北区)が2011年10月9日、NHK全国学校音楽コンクール全国大会小学校の部で金賞を受賞。あわせて日本放送協会会長賞、文部科学大臣賞、内閣総理大臣賞を受賞し日本一となった。同校の金賞は3年ぶり2回目。この全国大会には予選に参加した全国909校から11校が出場。星美学園小学校は、課題曲「ぼくらは仲間」と自由選曲「学校へ行きたい」(組曲「きつとほんとはみんな」より)の2曲を合唱。出場した児童たちは、東日本大震災で被災された方々に勇気と希

サレジオ会のホームページ salesians.jp
ユースブック
ネットのできるココロのはなし。
投稿・相談してみよう!
http://salesians.jp/youthbook/
サレジオのつぶやきリレー
サレジオ会員の生活・考えていることを好評つぶやき中!
http://salesians.jp/method/tsubuyaki-liray/

望を願う祈りの歌をささげようという気持ちで歌ったという。校長の森内直子シスターは「ここまでのプロセスで子どもたちが大きく成長したことにこそ大きな成果があり、子どもの心や思いが聞く人に伝わったのでしよう」と児童たちの成長と受賞を喜んだ。
NHK 全国学校音楽コンクール全国大会で金賞を受賞した星美学園小学校聖歌隊



NHK 全国学校音楽コンクール全国大会で金賞を受賞した星美学園小学校聖歌隊



わたしはよい羊飼いである。
よい羊飼いは、羊のためにいのちを与える。

(ヨハネによる福音書10章11節)

**若者のために神の愛をあかしたドン・ボスコを知り、
ドン・ボスコにならい、若者とともに熱意をもって歩もう。**

2015年のドン・ボスコ生誕200周年に向け、私たちは今年、ドン・ボスコの生涯を知ること

に焦点を当てます。19世紀のイタリアで、政治的動乱や産業革命のあおりを受け、社会に見捨てられた青少年のために、神の愛を伝えたドン・ボスコの姿を学びましょう。

救い主イエス・キリストは、羊に豊かないのちを与えるために自分のいのちを与える「よい牧者」にたとえられます。ドン・ボスコの生き方は、まさによい牧者イエスにならうものでした。「わが貧しい子どもたちのために、最後の息に至るまで自分を使い果たすことを神に約束しました。」

私たちもドン・ボスコを知ることによって、ドン・ボスコを愛し、ドン・ボスコにならうことができます。さまざまな苦しみ、貧しさの中にある若者、人々のために、いのちをかけて共に働くよう、神は今日も私たちに呼びかけておられます。

サレジオ会総長 チャーベス神父
2012ストレンナ解説より

上の絵は、ドン・ボスコが9歳の時に見た夢の場面。詳しくは『完訳ドン・ボスコ伝』p.22～24参照。